



元気いっぱい

ほけんだより
令和4年8月 臨時号
福井市子育て支援課

令和4年8月現在、新型コロナウイルス感染症の感染について、オミクロン株の感染力の強さから、保育園等においても、多数の感染が確認されています。さらに、お子様からの家庭内感染が急激に増えているような状況です。

お子様が新型コロナウイルスに感染してしまった場合の症状やお世話のポイントをまとめましたので、参考にしてください。



1 新型コロナウイルスに感染したお子さんの観察ポイント

お子さんの新型コロナウイルス感染症は多くの場合は軽症です。ただし第6波以降、新型コロナウイルス感染症に伴ってクループ症候群¹や、熱性けいれんを伴うお子さんをみかけるようになってきました。

お子さんのご機嫌、食欲、顔色、呼吸のようす（息苦しそうでないか、胸がべこべこへこむような呼吸になっていないか）意識はおかしくないかなどを観察して下さい。

機嫌がよく、食欲があり、顔色が普通であれば基本的には心配いりません。

意識がはっきりしない、機嫌が悪い、食欲が低下している、水分がとれない、顔色が悪い、息苦しそう、嘔吐を繰り返す、けいれんしているなどの場合は、速やかに保健所またはかかりつけ医に相談、受診してください。



1：クループ症候群

のどの奥（声をだすための声帯があるあたり）が感染により腫れてしまうことで、声がかすれたり、息を吸うときにヒューヒューする音がでたり、犬の鳴き声のようなケンケンするかん高い咳がでたりする病気です。生後6か月から3歳くらいまでのお子さんに多い病気です。

いろいろな呼吸器ウイルスの感染が原因となりますが、新型コロナウイルスでも起こりうる事が報告されています。ひどくなると息苦しくなってしまう、空気の通り道を広げるための吸入や、炎症をおさえるステロイドを投与するなどの治療が必要となります。クループ症候群を疑う症状がでた場合は、早めに病院を受診しましょう。

2 ご家族に感染を広げないための8つのポイント



1	部屋を分けましょう
2	感染者の世話をする人は、できるだけ限られた方にしましょう
3	感染者・世話をする人は、お互いにマスクをつけましょう
4	感染者・世話をする人は、小まめに手を洗いましょう
5	日中はできるだけ換気をしましょう
6	手のよく触れる共用部分をそうじ・消毒しましょう
7	汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう
8	ゴミは密閉して捨てましょう



3 お子さんのケアをする際のポイント

日常のお世話について（歯磨き・入浴・食事・抱っこ・睡眠など）

歯磨きの際には、歯磨き粉の家庭内での共有を避けましょう。

洗顔や入浴の際のタオルやバスタオルの使い回しも避け、ご家族それぞれに別のタオルを使用しましょう。

食器については、できれば使い捨ての物にして、食後はビニール袋に入れて、口を縛って捨ててください。使い捨ての食器が使用できない場合は、通常の食器用洗剤でしっかり洗えばよく、感染者のものを分けて洗う必要はないとされています。

お子さんを抱っこする場合や、添い寝をしないとお子さんが寝られない場合などは、ご家族はマスクを着用し、可能であれば使い捨てのエプロンや手袋を使うようにしましょう。

オムツの処理について

新型コロナウイルスは便にも排出されます。小さいお子さんの場合、おむつの取り扱いには気をつけましょう。おむつ交換の際にはおむつ交換用のシートを使用するか、交換後の清掃をしましょう。おむつを捨てる際にはビニール袋で密閉し、さらにもう1枚のビニール袋で二重に密閉して捨てるようにしましょう（使用済みマスクや、鼻をかんだティッシュなども同様です。）

おむつや使用済みマスク、鼻をかんだティッシュの処理をしたあとは必ず石鹸で手を洗いましょう。一方で、トイレトレーニングが終わっているお子さんの場合は、トイレで用を足したあと、蓋をしめてから水を流すようにしましょう。トイレを使った後は家庭用の洗剤でしっかりと掃除をし、そのあと手洗いをお子さんと一緒にしましょう。

体を拭いたり、排泄物の処理をしたりする際にはマスクに加え、可能であれば使い捨てのエプロンや手袋を使うようにしましょう。最後に石鹸で手をしっかりと洗うことが重要です。

マスク着用について

2歳未満のお子さんへのマスク着用は、息が詰まるなどの危険があるのでやめましょう。2歳以上のお子さんの場合は、お部屋に1人で休んでいる時にマスクをつける必要はありませんが、ご家族がお子さんのお世話をする際には、可能であればお子さんにもマスクをつけましょう。もちろん、お世話をするご家族のマスクは必須です。

マスクの着用については、お子さんの症状がでてから10日間、もしくは症状が治まってから3日間、どちらかの期間の内、長い期間が過ぎたら外してもかまいません。

環境について

暑い日には、マスクなどの着用により熱中症にならないように、部屋の温度に配慮して、冷房を適切に使用しましょう。